

# COPAIBA通信 20周年記念 20枚の写真で振り返る フォトギャラリー



## ● 現地移住期 (写真①～⑤)

1992年 リオ デ ジャネイロで開催された地球サミットでのインディオ達との出会いをきっかけに、当社創業者 吉野安基良 が現地調査団入り。(①)家族を現地まで呼び寄せて、日本から地球の裏・アマゾンまでお引越し。(②)1998年まで ブラジル・アマソナス州 パウイニ国立自然公園での約5年に亘る電気もガスも水道もない暮らしが、幕を開けました。



## ● 活動初期 (写真⑥～⑩)

90年代後半は、アマゾン採取者協同組合(通称“COPEAMA”)の創成期。毎夜組合会議が催され(⑦)、業務研修(⑥)や女性の職能訓練(⑨)など、様々な取り組みが実施されました。同時期にNPOグリーンハートを中心とした教育支援活動がスタート。めでたくパウイニ地区に第一号となる学び舎が建設されました。(⑧)同時期、生態系を傷つけない森の有用植物を活用する器として、2001年に(株)サポートジャングルクラブが設立されました。(⑩)



## ● 現在 (写真⑪～⑳)

当社設立後まもなく、150人規模の生徒が在籍可能な第二校舎を設立。(⑪)2002年から2016年にかけて、増改築やグラウンドの整備、教育資材調達を行ってきました。(⑫ ⑬) 州立学校の要件を満たしたことで、給食の提供や都市部からの教師の受け入れが可能に。一方で100%木造建築故に、校舎の劣化・破損が激しく、半コンクリート製の第三校舎建築プロジェクトがスタート。スケジュールは遅れながらも、2018年に着工(⑭)、2019年完成(⑮)。教育支援と並行し、採取者支援も継続中。ボート用原動機、カヌー、保管用容器等を日々、提供しています。(⑰ ⑳)

